第25回建築BIM環境整備部会
資　料　2　－　2

標準化TFにおける取組

令和8年10月28日

はじめに

　国土交通省 BIM推進会議 標準化タスクフォース、属性項目の標準化における成果物として「属性情報の標準化」「ユースケースの検討」「外部データとの連携」を軸に検討を進めてまいりました。

　建設業界におけるデジタル化と効率化を推進し、共通の基準となるBIMの属性情報を提供することを目的として、今年度は「標準属性項目リスト」を活用したユースケースの検証及び社会実装に向けたBIMによるデータ連携の在り方を検討する予定でおります。

　皆様のご協力と知恵の結集により、この成果物が業界標準として広く受け入れられることを期待していますので、何卒、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2026年10月28日
標準化タスクフォース

アジェンダ

1. 前年度までの成果 ---------- 03

2. 3カ年計画検討結果 ---------- 10

3. 2026年度（R8）作業概要 ---------- 13

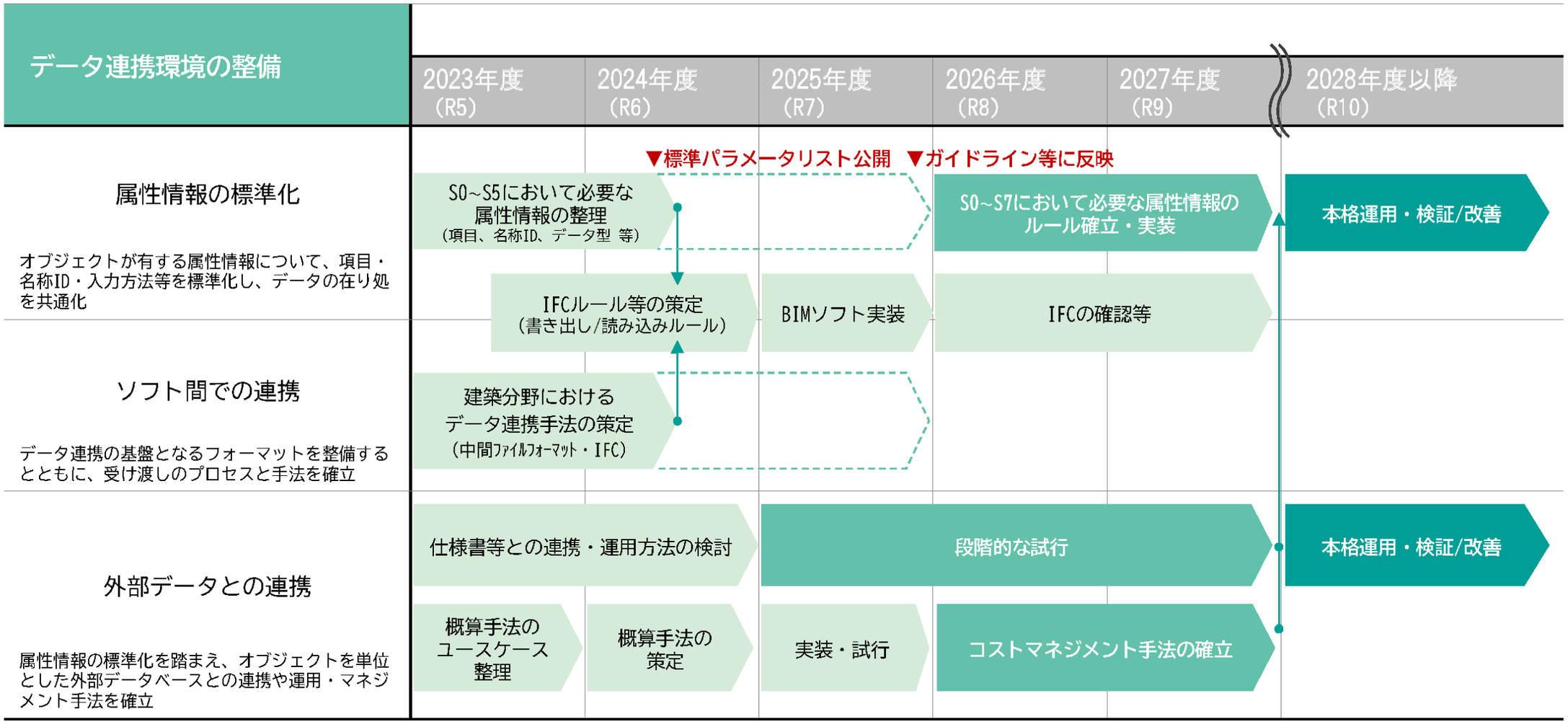
4. 進捗報告 ---------- 19

5. 今後の取り組み ---------- 27

1 前年度までの成果

BIMの将来像と工程表 - データ連携環境の整備

データ入力ルール等の整備（データの標準化）とデータの受け渡しルール等の共通化を進めることで、
設計・施工・維持管理等プレーヤー間でのBIMデータの横断的活用を進め、建築分野における生産性向上を実現する。



引用：第11回BIM/CIM推進委員会「建築分野における検討WG（建築BIM推進会議）の活動状況について」令和6年2月22日

用語の整理を行った結果、「標準パラメータリスト」ではなく、「標準属性項目リスト」と名称を改めました。

標準化タスクフォースの目的

本タスクフォースにおける「標準化」とは

建築生産のフローすべてをルールで雁字搦めにするのではなく、必要もしくは当たり前な部分を属人化されることなく共通認知できるようにするための参照点として整理することを目的としています。

そのため、これまで各企業で進めていた標準化の取り組みを阻害するものではございません。

各企業においては引き続き標準化の取り組みを進めていただきますようお願いいたします。

属性情報の標準化

オブジェクトが有する属性情報について、項目・属性ID・入力方法等を標準化し、データの在り処を共通化

ソフト間での連携

データ連携の基盤となるフォーマットを整備するとともに、受け渡しのプロセスと手法を確立

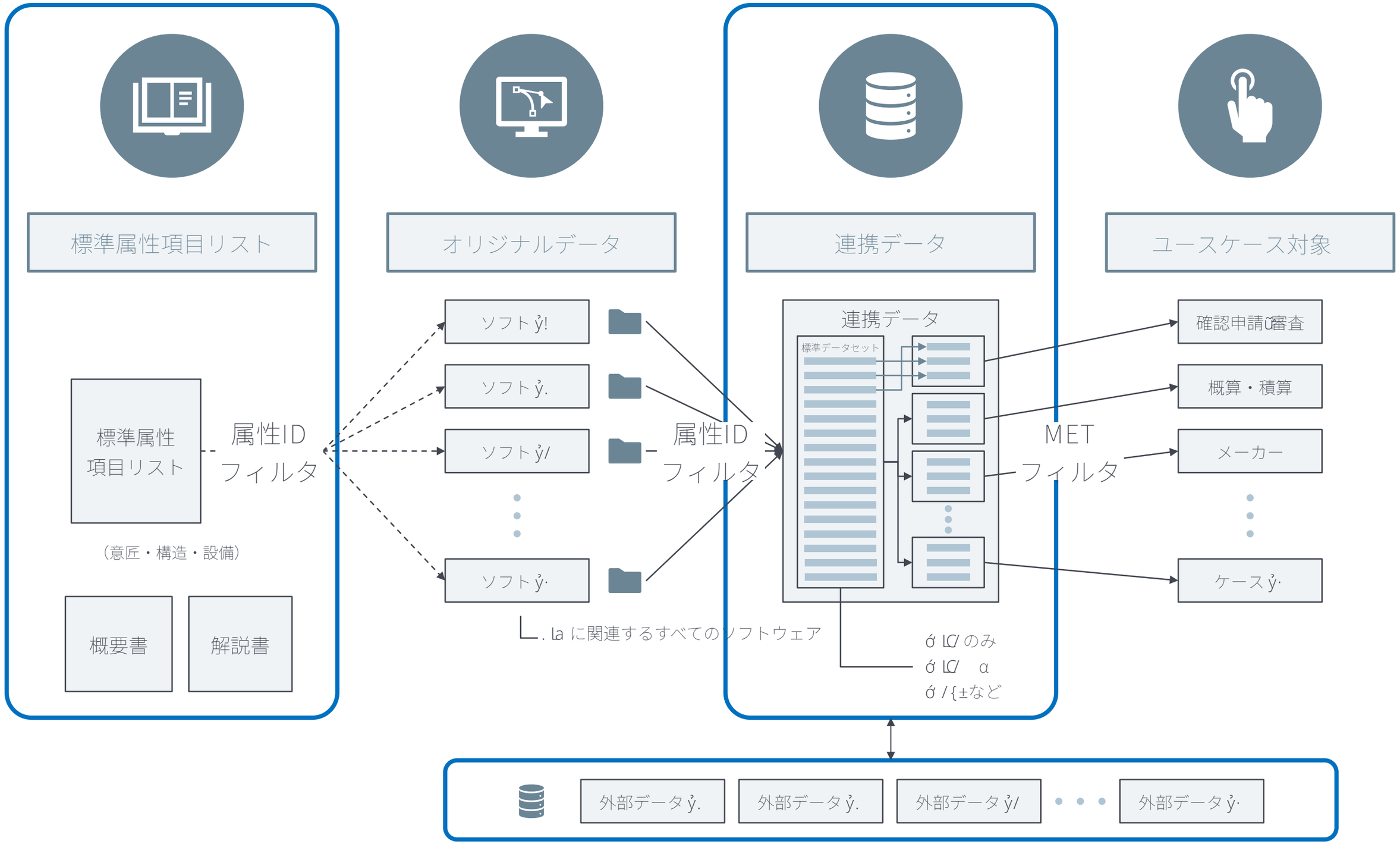
外部データとの連携

属性情報の標準化を踏まえ、オブジェクトを単位とした外部データとの連携や運用・マネジメント手法を確立

「標準属性項目リスト」は、「用語の定義」と「用語のマッピング」を目的としており、辞書的な活用を可能とするものです。将来的には、使い方の例示（ユースケース）を増やして、ソフト間及び外部データとの連携の指針として提示する予定です。

25年度スコープ

昨年度は、以下のスコープで検討を進めました。
連携データの検討においては、サンプルモデルをベースに検討を進め、その検証結果を標準属性項目リストへフィードバックし、更新作業を行いました。



25年度マイルストン

2025年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
		Q1			Q2			Q3			Q4	
						中間報告▼						最終報告▼
Ⅰ．属性情報の標準化												
①標準属性項目リストの改訂	**改訂案の骨子作成**					**改訂案の内容精査**			**属性項目リストへ反映**		**報告書作成**	
	項目追加作業											
	改訂内容の検討								項目改訂作業			
②属性項目リストのDB化	**属性項目DBの要件定義案の作成**							**要件の整理**		**報告書作成**		
	属性項目DB要件定義						機能要件の整理					
Ⅱ．ユースケースの検討												
①ユースケース検討書	**ユースケース検証（深堀）**									**報告書作成**		
	ユースケースの深堀											
	ユースケース選定			**ユースケース検証（拡張）**						**報告書作成**		
	ユースケース選定											
			ユースケース検討チーム編成									
				ユースケース検討								
Ⅲ．外部データとの連携												
①ユースケース検討書	**検討対象/手法の選定**			**手法と要件整理**			**連携手法の検証**			**報告書作成**		
	ユースケースの深堀											
	外部DB連携手法の検討											
	外部DB要件整理											
							外部DB連携手法の検証					

25年度最終成果物

第15回建築BIM戦略WG資料
再掲

Ⅰ.属性情報の標準化

Ⅱ.ソフト間での連携

Ⅲ.外部データとの連携

概要書 Ver.2.0	標準属性項目リスト Ver.2.0	属性項目解説書 Ver.2.0	用語集 Ver.2.0
標準属性項目リスト 概要書 （PPT）	標準属性項目リスト （pdf/Excel）	属性項目解説書 （Word）	用語集 （PPT）
• 概要書	• ロングリスト 　• 統合版（意匠/構造/設備） 　• 施工・製作版（V1.0） • 付属 　1. 簡易使い方解説 　2. 改訂説明・凡例	• 解説書 　0. 共通 　1. 意匠 　2. 構造 　3. 設備 　4. 施工・製作（V1.0）	• 用語集 ※昨年度概要書に付録として提示していたものを別途発行する形式に変更予定

活動報告書	成果報告書		
2025年度 活動報告書 A4（タテ） （word）	2025年度成果報告書 Ⅰ.属性情報の標準化 （PPT）	成果報告書 Ⅱ.ソフト間での連携 （PPT）	成果報告書 Ⅲ.外部データとの連携 （PPT）
• 標準化TFの目的 • 運営報告 • 成果物についての概要 • 今後の検討事項と課題	• 標準属性項目リストの改訂 　• 改訂に関する報告 　• 各専門チームの報告 • 属性項目リストのデータベース化要件案	• ユースケース検討書 　• 積算ユースケース 　• 部門間連携ユースケース 　• 施工・製作ユースケース 　• 確認申請ユースケース 　• ユースケース整理方針検討	• 外部データ連携手法検討書 • 外部データユースケース検討書

26年度の取り組み構想（25年度成果報告書より）

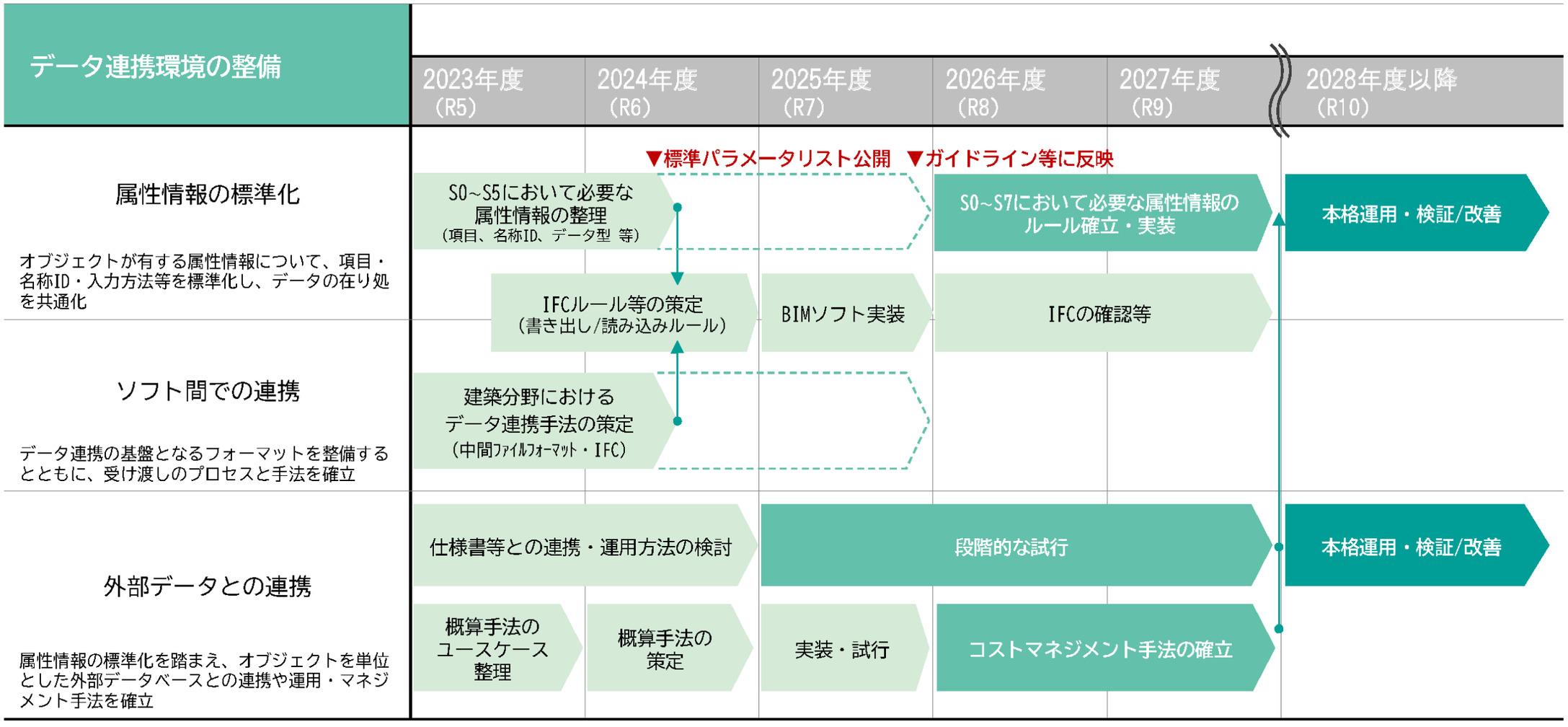
26年度はBIMの将来像と工程表において3か年が経過した年になります。取り組みにおいては、属性項目のリスト化やユースケースの例示を行ってきた成果をふまえ、「属性情報の標準化」を社会実装につなげる戦略や手法の検討を進めると共に、「ユースケースの検証」を通じたMETの試行（METのプリセット案の提示）、及び「外部データとの連携」の実効性を高めるための具体的なユースケースの検証を進めていきたいと考えております。

	2025年度の取り組み		2026年度の取り組み		
Ⅰ．属性情報の標準化	属性項目リストの改訂とDB化	属性項目の改訂（国際化など） 属性項目の追加 属性項目リストのデータベース化	属性項目リストの改訂とDB化	• 属性項目の検討（精緻化・国際化など） • DBの在り方・活用の検討	ユースケースに基づいたMETのプリセット案※1 及び 社会実装に向けサンプルモデルを利用したユースケースの深堀※2 ※1｜METのプリセット案は過年度の報告書より事例として抽出 ※2 ユースケースの深堀は既存サンプルモデルに対するユースケース適用の検証
Ⅱ．ユースケースの検討	ユースケースの深掘りと拡張	S4積算ユースケースの検証（深堀） 施工製作ユースケースの拡張 その他検証ユースケース選定・検証	ユースケースの社会実装に向けた取り組み	• ユースケースの検証 • METの使用方法及びMETプリセット案の提示 • 社会実装に向けた出口戦略の検討	
Ⅲ．外部データとの連携	データ連携の要件整理	データ連携検討対象・手法の選定 LCA等との連携手法・要件整理 データ連携要件案とりまとめ	データ連携の要件整理	• 外部データに関する具体的なユースケースのおける検証 • 外部データ連携の社会実装に向けた検討	

2 3カ年計画検討結果

BIMの将来像と工程表 - データ連携環境の整備（令和５年３月公開）

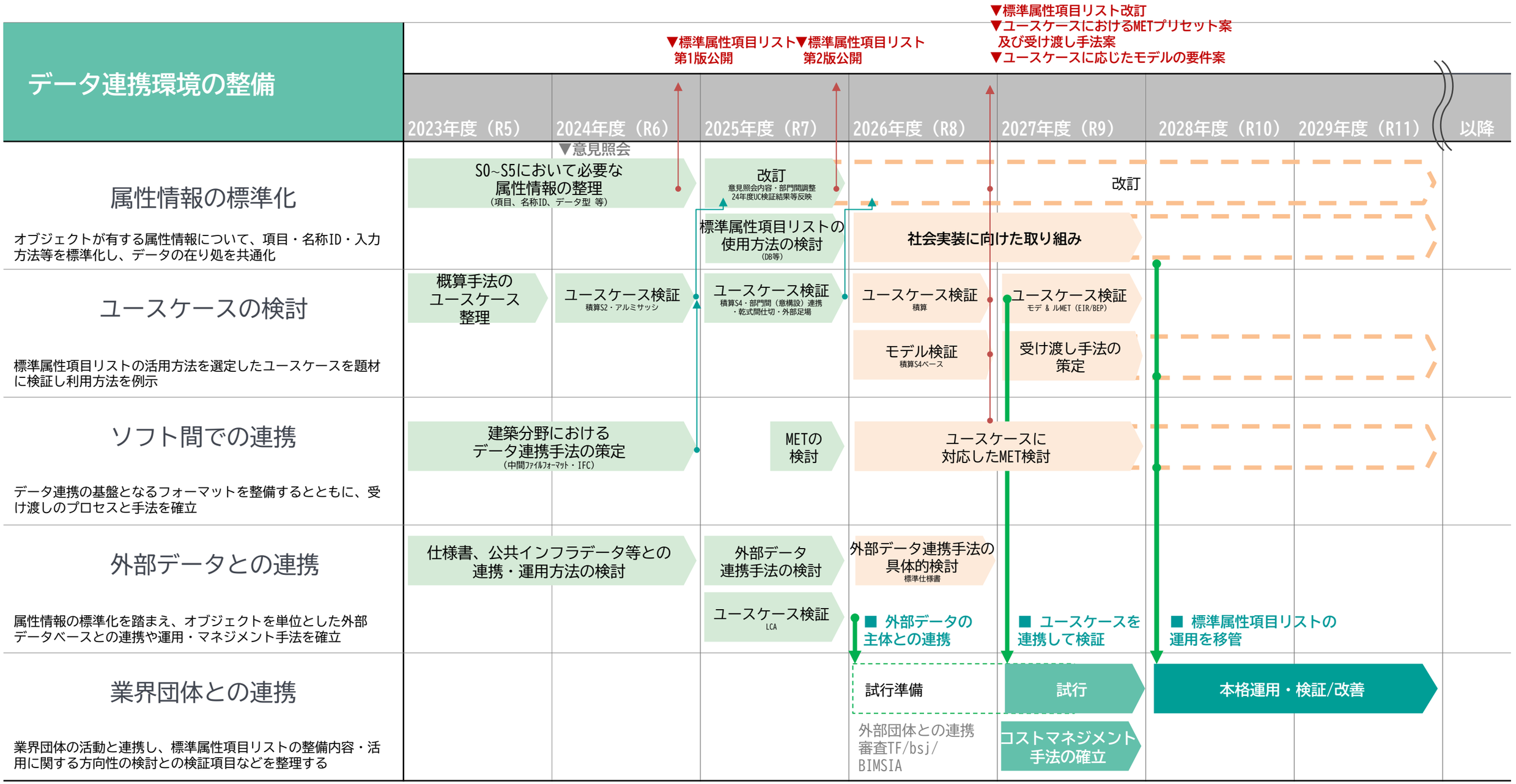
データ入力ルール等の整備（データの標準化）とデータの受け渡しルール等の共通化を進めることで、
設計・施工・維持管理等プレーヤー間でのBIMデータの横断的活用を進め、建築分野における生産性向上を実現する。



引用：第11回BIM/CIM推進委員会「建築分野における検討WG（建築BIM推進会議）の活動状況について」令和6年2月22日

BIMの将来像と工程表 - データ連携環境の整備（加筆版）

3カ年整備を進めた成果をふまえ、2026年度以降の3カ年計画を行った。
属性情報の標準化として公開した標準属性項目リストを社会実装するにあたっての活動方針を追加し、
実装に向けた活動を主軸に実行する計画とした。



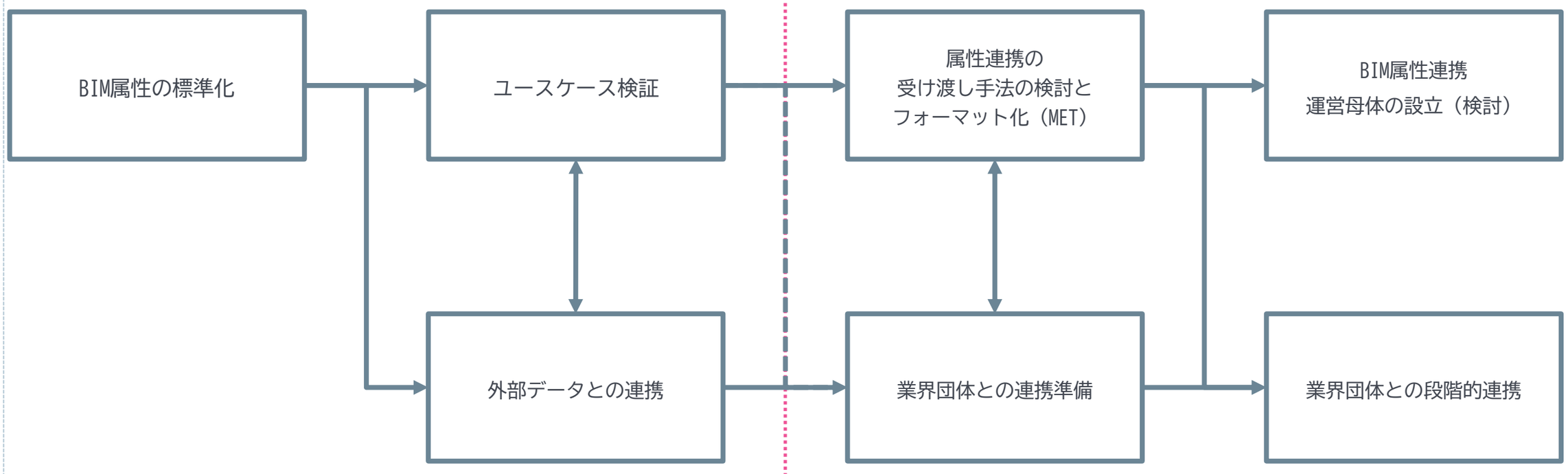
3 2026年度（R8）作業概要

標準化TFの活動ストーリー

標準化TFの活動として、2024年度には網羅的な辞書としての標準属性項目リストを公開し、2025年度には積算ユースケースの検証や構造荷重・設備室諸元表などの部門間での連携におけるデータジャーニーを用いた使い方の例示まで行った。
2026年度はユースケースに応じた属性情報のMETフォーマット案の作成を行い、広く活用できる状態を目指すと共に、2027年度以降、業界団体と連携して検討を持続させられるよう準備を進める予定。

年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
実施事項	網羅的な辞書の提示	使い方の例示	活用方法のフォーマット化	社会実装の具体化
アウトプット	**標準属性項目リスト**	**ユースケース検証報告**	**METフォーマット（案）**	**BIM属性活用の手引き**

活動の流れ

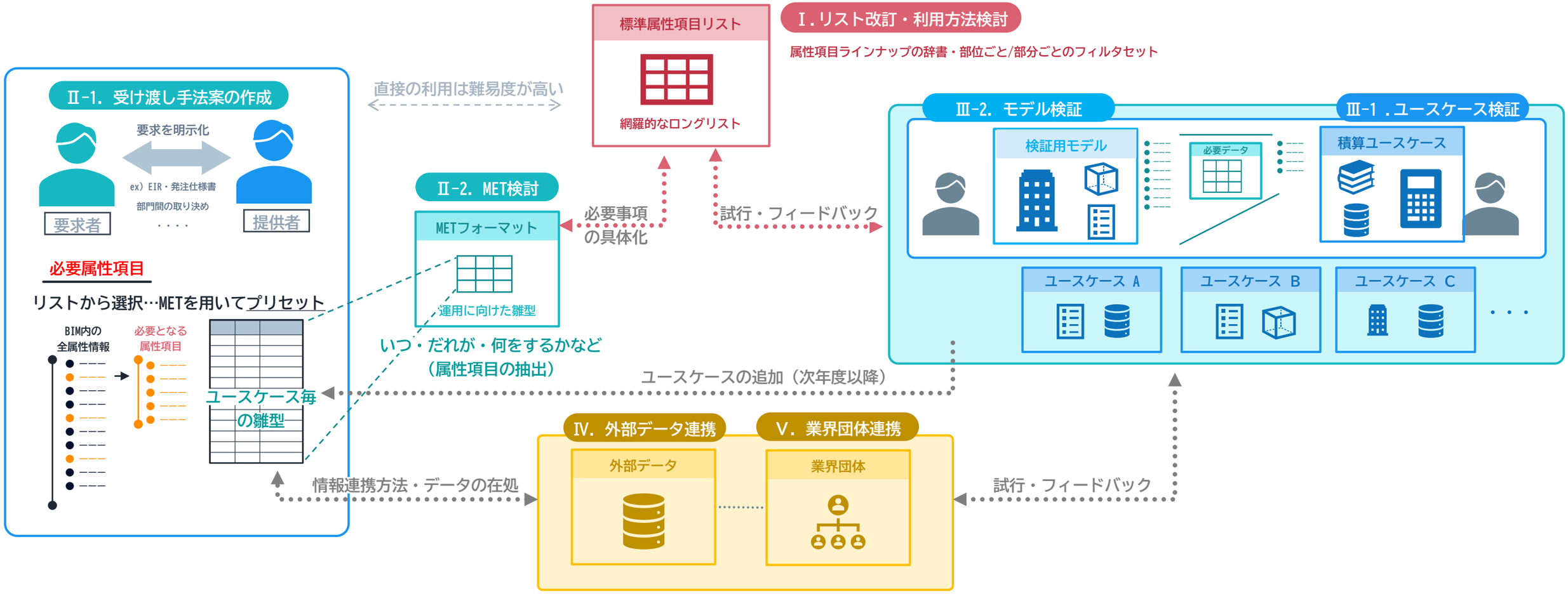


26年度マイルストン｜計画

2026年度	4 5 6 Q1	7 8 9 Q2	10 11 12 Q3	1 2 3 Q4	最終アウトプット（案）
		中間報告▼		最終報告▼	
Ⅰ．属性情報の標準化		リストの改訂			・リストの改訂版 ・解説書の改訂版
		今後の改訂に向けた検討 ・ユースケースに関する項目対応 ・精緻化 ・施工・製作の正式版反映方針 など	改訂作業 社会実装に向けた検討		
Ⅱ．ソフト間での連携		ユースケースに対応したMET検討			・ユースケースにおけるMETプリセット案 ・受け渡し手法案
		METフォーマット検討 ・先期MET検討結果の統合を検討する ・昨年度のユースケースで検証を行う（荷重・諸元など）	METプリセット案作成	受け渡し手法案の作成	
Ⅲ．ユースケースの検討		積算ユースケース検証 複数フェーズ（S1/S2/S4）におけるBIM-積算検証 モデル検証 複数フェーズにおけるモデル作成 ・数量/単価算定をBIMor外部の仕分けを整理 ・検証範囲の検討とモデル確認		・モデルと属性項目リストの照合	・ユースケースに応じたモデルの要件案
Ⅳ．外部データとの連携		外部データ連携手法の検討 BIM外部データとしての標準仕様書デジタル化検証 先行事例分析	連携検証・課題整理	報告書作成	・連携手法の検討結果
Ⅴ．業界団体との連携		関係団体との連携・試行の準備 BIMSIAとの連携スコープの検討	BIMSIAとの連携 審査TFとの連携スコープの検討 bsjとの連携スコープの検討	審査TFとの連携 bsjとの連携	・検討結果報告書

属性項目リストとMET・ユースケースの検証の関係性

網羅的な辞書である標準属性項目リスト（Ⅰ）は直接の利用は難易度が高い。このため、要求者・提供者間で要求を明示化する受け渡し手法案を作成（Ⅱ-1）し、ユースケースに応じて「いつ・だれが・何をするか」必要な属性項目を抽出・プリセットするMETフォーマット（Ⅱ-2）を検討する。METは積算ユースケースのユースケース検証（Ⅲ-1）・モデル検証（Ⅲ-2）で試行し、その結果をリストの改訂へフィードバックする（Ⅰ）。あわせて、外部データとの連携（Ⅳ）および業界団体との連携（Ⅴ）を検討し、情報連携方法・データの在り方を整理するとともに、ユースケース検証との間でも試行・フィードバックを行う。



Ⅰ．属性情報の標準化	Ⅱ．ソフト間での連携	Ⅱ．ソフト間での連携	Ⅲ．ユースケースの検討	Ⅲ．ユースケースの検討	Ⅳ．外部データとの連携	Ⅴ．業界団体との連携
• 標準属性項目リストの改訂作業 1．不足している属性項目の追加 2．分野間における属性項目の統合 3．軽微な修正	• 1．受け渡し手法案の作成 1．不足している属性項目の追加 2．分野間における属性項目の統合 3．軽微な修正	• 2．METのプリセット案の検討 積算ユースケースにおける標準属性項目リストを使いやすくフィルタリングする案を検討 大量にある属性IDをユースケースで使用するものだけに絞り込んでプリセット化することで、再利用性を高めます	• 1．積算ユースケースの検証 BIMを活用した積算業務において、BIM内の属性情報や外部データを利用して効率化を行う検証を実施	• 2．ユースケース検証用のモデル準備 積算ユースケースの検証を行うためのモデルを準備する	• 外部データとの連係の検討 ユースケースにおいて、BIM以外の情報を利用する場合の連携方法を検討する	• 業界団体との連携検討 BIMSIAを始めとした業界団体と連携することで、各団体が保有するデータについても、標準属性IDによる連携を模索する

METのFMT化とプリセットとは（イメージ）

MET（Model Element Table）は、属性項目リストに対し、「いつ」・「だれが」・「何をするか」など、ユースケースに応じて属性項目の抽出ができるようにあらかじめセットするものです。

どのようなFMTにするかは先期のユースケース検証にて検討した結果を統合し、作成を行うとともに、ユースケースごとの属性項目の抽出（プリセット）を行う予定です。

標準属性項目リスト

フィルタセット｜情報項目を特定する分類

オブジェクト種類	オブジェクト部分	属性特性区分
---	---	---
---	---	---
---	---	---
---	---	---
---	---	---

属性項目リスト｜情報に関する詳細

属性ID	属性名	属性単位
XXXXXXXXXXXX	---	---
XXXXXXXXXXXX	---	---
XXXXXXXXXXXX	---	---
XXXXXXXXXXXX	---	---
XXXXXXXXXXXX	---	---

METフォーマット

情報使用フィルタ｜UCごとの情報

ステージ（S）								ユースケース			
0	1	2	3	4	5	6	7	-	-	-	…
A	A	A	A	A				●			
				E							
		A	A	A				●		●	●
		S	S	S				●		●	
		S	S	S				●	●	●	●

プリセット化

⬇ ユースケースでソート

ユースケースに応じて必要な属性項目

---	---	---
---	---	---
---	---	---

		A	A	A				●		●	●
		S	S	S				●		●	
		S	S	S				●	●	●	●

実行体制

昨年度と同様に、タスクの横軸を主体としたチーム編成にて実施
意匠・構造・設備・施工製作・積算の各専門分野チームをマトリックス状に配置して体制を構築

標準化タスクフォース リーダー会
各チームのリーダーが集まり方向性の検討・進捗確認・情報共有・意見交換などを実施

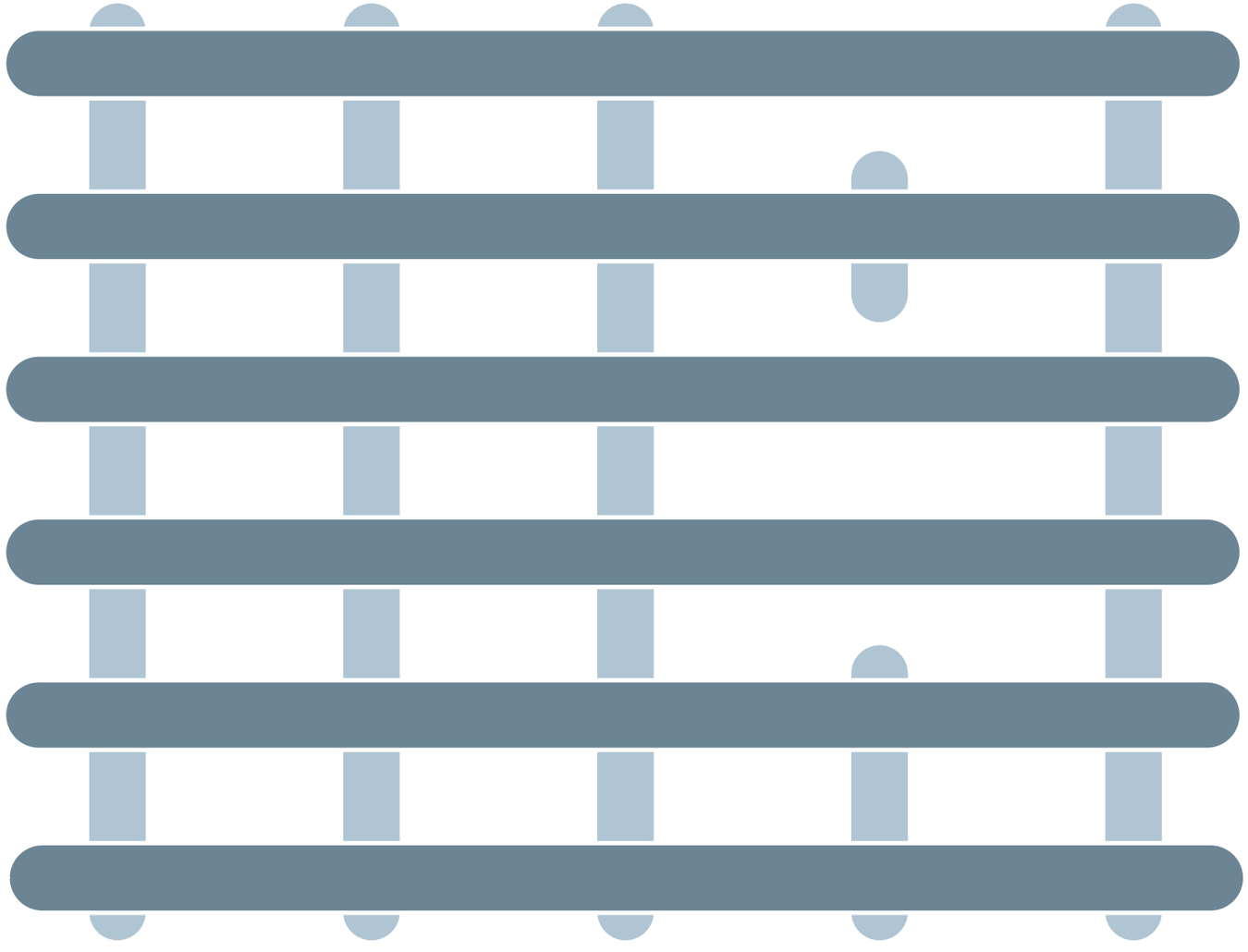
LD. 大越　潤/SLD. 松本　朋之

運営チーム
リーダー会の方向性の検討・進捗確認など運営に関わる協議を実施

TLD.　高木

意匠	構造	設備（機械・電気）	施工・製作	積算
TLD. 大門　浩之	TLD. 山本　敦	TLD. 吉原　和正	TLD. 足立　友和	TLD. 須貝　成芳

- **標準属性項目リストの改訂**
  TLD. 家原/菅原/山本/吉原
- **ユースケース｜積算**
  TLD.　須貝/足立
- **ユースケース｜モデル検証**
  TLD.　大門
- **ユースケースに対応したMET検討**
  TLD. 山本
- **外部データ連携手法検討**
  TLD. 安井
- **業界団体との連携**
  TLD. 吉原



事務局
・会議体の運営サポート
・事務手続のサポート

buildingSMART Japan

4 進捗報告

26年度マイルストン｜全体進捗

更新箇所

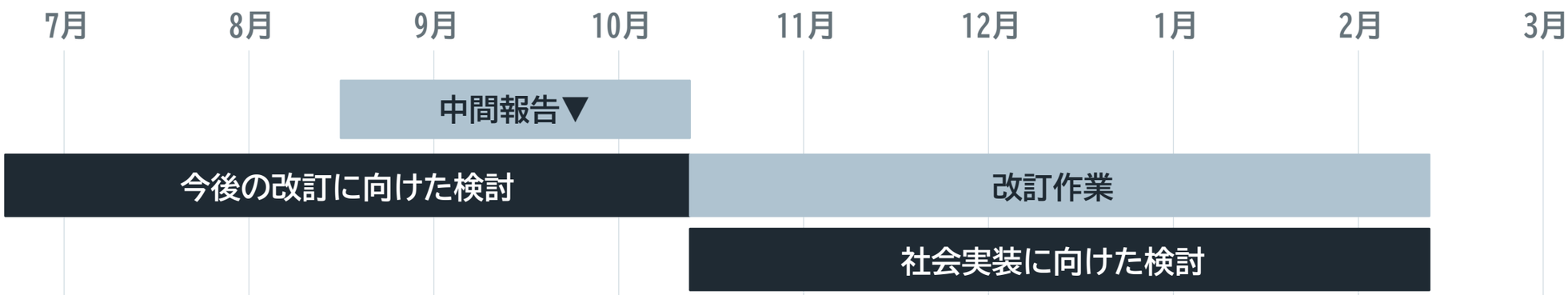
※現状特に遅延なし

2026年度	4 5 6 (Q1)	7 8 9 (Q2)	10 11 12 (Q3)	1 2 3 (Q4)	最終アウトプット（案）
		中間報告▼		最終報告▼	
Ⅰ．属性情報の標準化		リストの改訂			・リストの改訂版 ・解説書の改訂版
		今後の改訂に向けた検討 ・ユースケースに関する項目対応 ・精緻化 ・施工・製作の正式版反映方針 など	改訂作業 社会実装に向けた検討		
Ⅱ．ソフト間での連携		ユースケースに対応したMET検討			・ユースケースにおけるMETフォーマット案 ・受け渡し手法案
		METフォーマット検討 ・先期MET検討結果の統合を検討する ・昨年度のユースケースで検証を行う（荷重・諸元など）	METフォーマット案作成	受け渡し手法案の作成	
Ⅲ．ユースケースの検討		積算ユースケース検証 複数フェーズ（S1/S2/S4）におけるBIM-積算検証 モデル検証 複数フェーズにおけるモデル作成 ・数量/単価算定をBIMor外部の仕分けを整理 ・検証範囲の検討とモデル確認		・モデルと属性項目リストの照合	・ユースケースに応じたモデルの要件案
Ⅳ．外部データとの連携		外部データ連携手法の検討 BIM外部データとしての標準仕様書デジタル化検証 先行事例分析	連携検証・課題整理	報告書作成	・連携手法の検討結果
Ⅴ．業界団体との連携		関係団体との連携・試行の準備 BIMSIAとの連携スコープの検討 審査TFとの連携スコープの検討 bsjとの連携スコープの検討	BIMSIAとの連携 審査TFとの連携 bsjとの連携		・検討結果報告書

Ⅰ．属性情報の標準化｜標準属性項目リスト改訂に向けた検討

今年度実施項目として、下記の予定：

1. 昨年度発表したもの（積算WGなど）で更新が必要な項目を加筆（※今年度のWGで得られた事項は次年度に反映予定）
2. 精緻化：重複・粒度・定義・データ型・単位が気になる属性を挙げる
3. ユースケース（施工製作等の）情報連携で課題になりそうな点を挙げる



～9月	**改訂方針の合意**	判断基準、重点論点、作業体制を確定
10～11月	**改訂作業**	属性項目（重複や誤字等）の精緻化への検討
11～12月	**全体統合**	意匠・構造・設備・施工WGとの連携検討
1～2月	**検証・解説書反映**	解説書改訂
3月	**最終報告**	改訂版、解説書、検討結果報告

Ⅱ．ソフト間での連携｜METの位置づけとスコープ

今年度実施項目として、昨年度のユースケース検証で提示されたMET案のファーマットの統一を行う予定。
課題：

- 双方向受渡しや１方向の受渡しの表現方法
- ユースケースの粒度感
- フェーズを踏まえたリスト構成

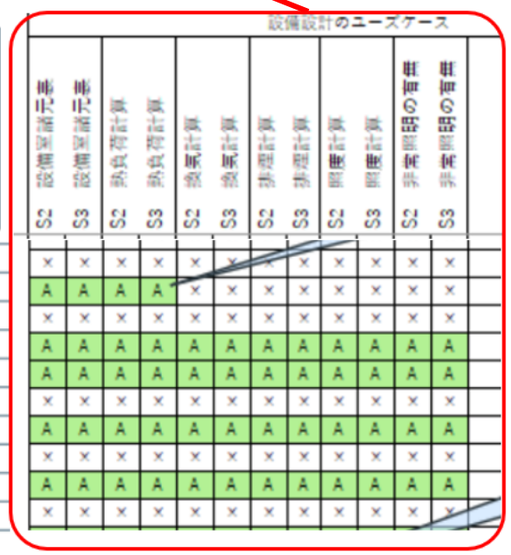
昨年度の提示されたMET案
（25年度成果報告書より）

ユースケース（意匠 ⟷ 構造）

属性項目名（日本語）	データタイプ	単位	入力値（参考例）	ケース1 提供者	ケース2 提供者
用途例	文字列		事務室(一般)	―	―
仕上げ概要	文字列		仕上げ(軽め)+乾式下地	―	―
室名	文字列		会議室	A	―
ヘビーデューティーゾーン	Boolean		True/False	A	―
用途	選択項目		事務室/倉庫/機械室	―	―
荷重ID_DL				―	S
荷重ID_LL				―	S
室用途	テキスト		事務室	―	(S)
積載荷重（地震用）	実数	N/mm2	800	―	(S)
積載荷重（床用）	実数	N/mm2	2900	―	(S)

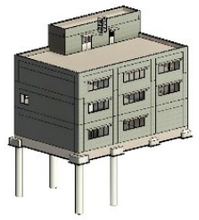
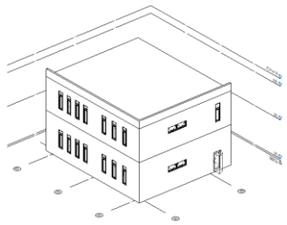
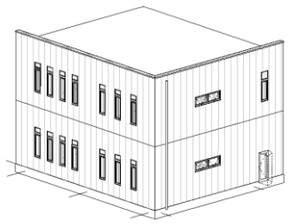
ユースケース（意匠 ➡ 設備）

属性項目名（日本語）	データタイプ	単位	入力値（参考例）
災害時利用	Boolean		True/False
冷暖房要否	Boolean		True/False
管理用マップ表示有無	Boolean		True/False
部屋番号	整数		101
ID	文字列		12345
室昇順番号	整数		001
用途分類（小）	文字列		職場、事務局、正副職長室
分類番号（小）	実数		001-01
用途分類（中）	文字列		職会ゾーン
分類番号（中）	実数		01



Ⅲ. ユースケースの検討｜積算ユースケース進捗

積算ユースケースでは、2023年度以降、BIMモデルを用いた概算・精算積算検証を段階的に進めてきた。2026年度は実用的観点を重視し、営繕BIMモデル（RC造4階建）を用いた意匠・構造・設備を含むコストマネジメント検証を実施し、標準属性項目リストを用いたMETプリセット案を提示予定。

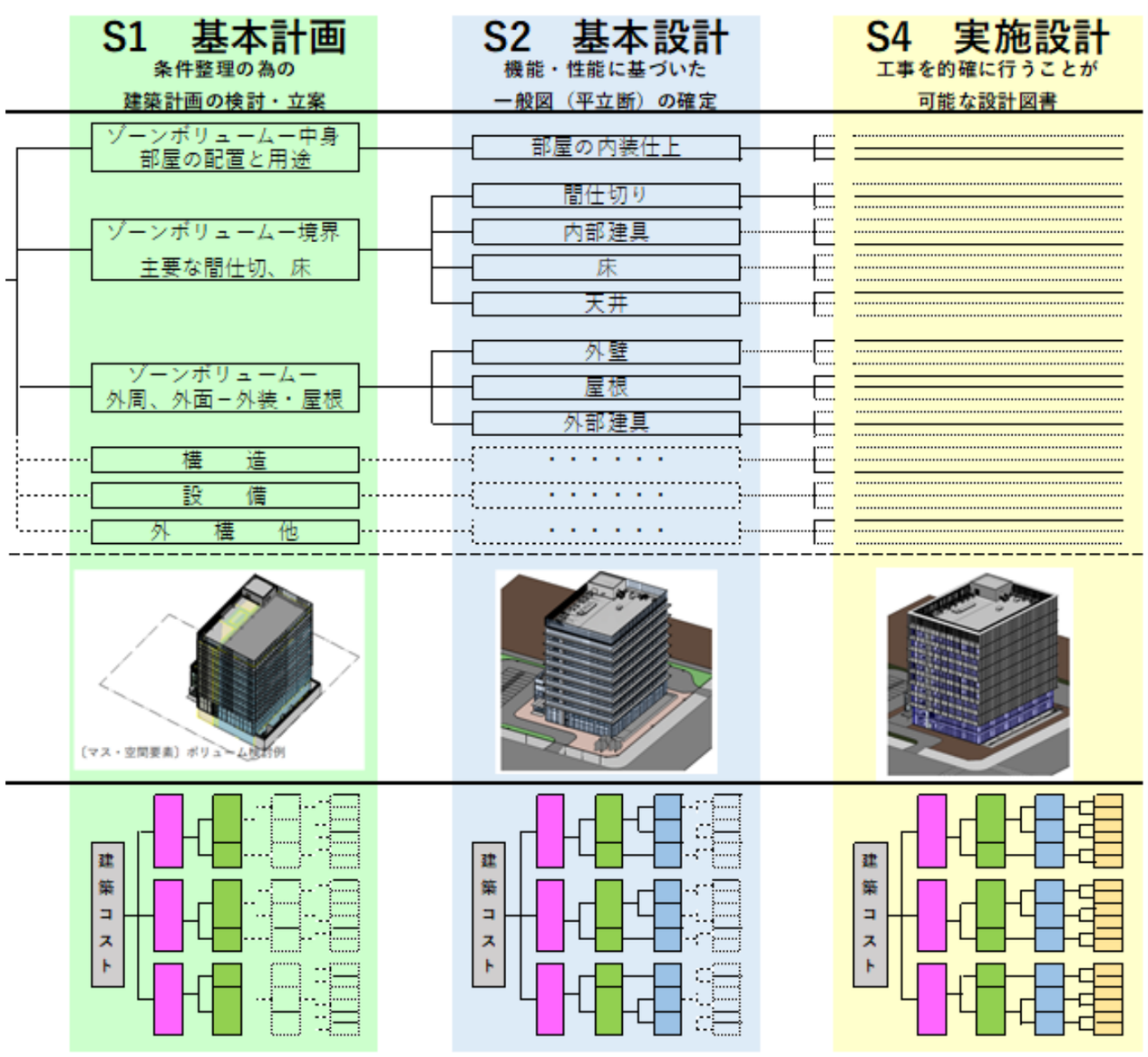
	2023年度	2024年度		2025年度	2026年度（予定）
	標準化TF一積算UC	日本建築積算協会－部会④	標準化TF一積算UC	標準化TF一積算UC	標準化TF一積算UC
活動概要	標準属性項目リスト案について、積算目線でのコメント ※具体的なBIMモデルは検証に用いず	S３BIMモデル(RC造３階建事務所ビル）を用いた**概算積算検証**	S２BIMモデル(S造２階建事務所ビル）を用いた**概算積算検証**	S４BIMモデル（2024年度モデルのS4版）を用いた**精算積算検証**	営繕BIMモデル(RC造４階建事務所ビル）を用いた**コストマネジメント検証**
検証用BIMモデル					
		・意匠モデルのみ ・BSIJ積算学校のモデルビルをBIM化	・意匠＋構造モデル ・標準化TF設計チームにて内製	・意匠＋構造モデル ・標準化TF設計チームにて内製	・意匠＋構造＋設備 ・国土交通省HPでの公開データを用いる予定
BIMと積算の関係の検証		・合成単価 ・BIMデータと内訳明細の構成及び粒度の違い ・Uniclassを用いた検証	・合成単価 ・パターン詳細図 →フェーズなりの図面粒度及び内訳明細粒度の関係性が重要	・マッチング率 ＝BIMデータの内訳明細への活用率 ・BIM外部データの存在（仕様書情報） ・プリセットオブジェクトの必要性	・マッチング率を上げる為のBIM積算なりの手法の検討 ・BIM外部データとは？ →BIMデータ内ー外の整理
標準属性項目リストと積算の関係の検証	内訳明細から見た、標準属性項目リストの違い ～粒度及び構成の視点から～		・フェーズに対応した、標準属性項目リストの「プリセット」タイプの必要性	・実用的観点からの標準属性項目における課題の列挙 ・標準属性項目リストの「フィルタセット」の必要性	・複数フェーズ（S1/S2/S4)におけるBIM-積算検証。 ・実用的観点からの積算ユースケースにおける標準属性項目リストを用いたMETプリセット案

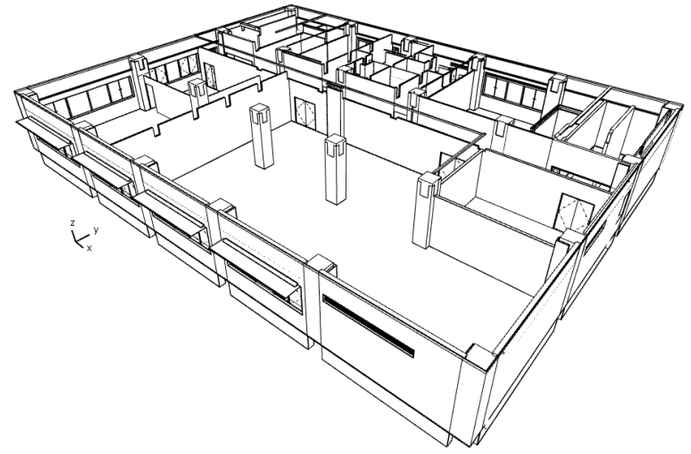
Ⅲ. ユースケースの検討｜複数フェーズにおけるモデル作成スコープ要件検討進捗

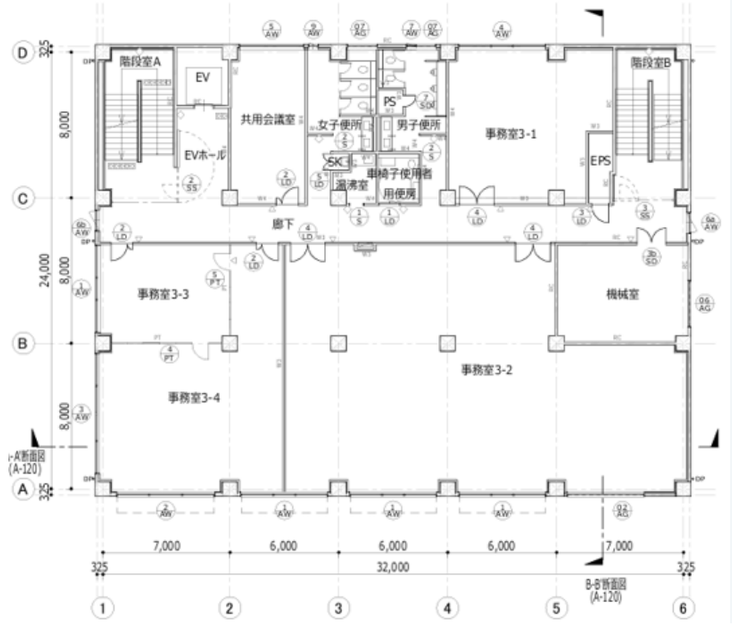
モデル作成スコープでは要件検討に先立ち、積算ユースケースの各設計フェーズにおけるコストマネジメント検証に必要な情報を提供するため、フェーズごとにBIMモデルを作成・更新する。各段階のモデルから、数量や仕様、属性情報等を抽出し、積算チームによる積算およびコスト比較に活用できるデータとして整理・提供する。

検証の対象は営繕BIMモデルの３階とし、躯体工事、内部仕上においてコストマネジメント検証に必要なモデルを作成する。

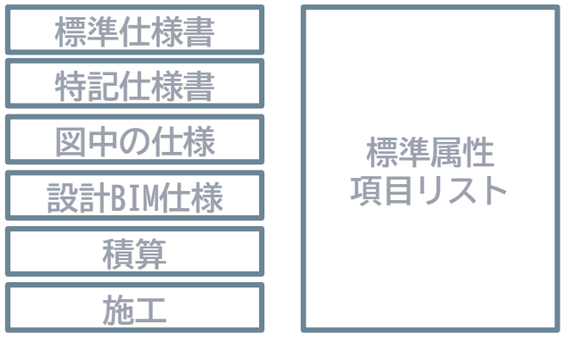
※実際のモデル作成は2027年度以降に作業予定







Ⅳ. 外部データとの連携｜外部データ連携手法の検討進捗（先行事例）



設計・施工に必要な属性情報は、設計図書の各図面や設計BIM、積算、施工など、さまざまな領域に分散しています。これらを整理・集約したものが「標準属性項目リスト」です。
各属性を「どの属性情報を、どの段階で、誰が入力するのか」を定めたのがMETであり、それらの情報をBIMや設計仕様のデータベースとして格納・連携する方法を定めるのが、外部データ連携です。

XML
標準仕様書
Ex. 10属性

XML
特記仕様書
Ex. 18属性

XML
上記以外の仕様書
Ex. 2属性
※建具表、仕上表にある仕様書

IFC
BIMに直接紐つく仕様・数量
Ex. 30属性

積算で85属性が必要というのがユースケース

積算
Ex. 積算には85属性が必要

維持管理
Ex. 維持管理には50属性が必要

見積質疑/回答

質疑/回答

IFC＋XML 設計仕様01 Ex. 70属性

IFC＋XML 設計仕様02 Ex. 85属性

IFC＋XML 建物仕様03 Ex. 100属性

IFC＋XML 建物仕様04 Ex. 200属性

IFC＋XML 建物仕様05 Ex. 50属性

現場質疑/回答

工事
Ex. 着工時には100属性が必要　Ex. 竣工までに決定した100属性

設計BIM+設計仕様DB

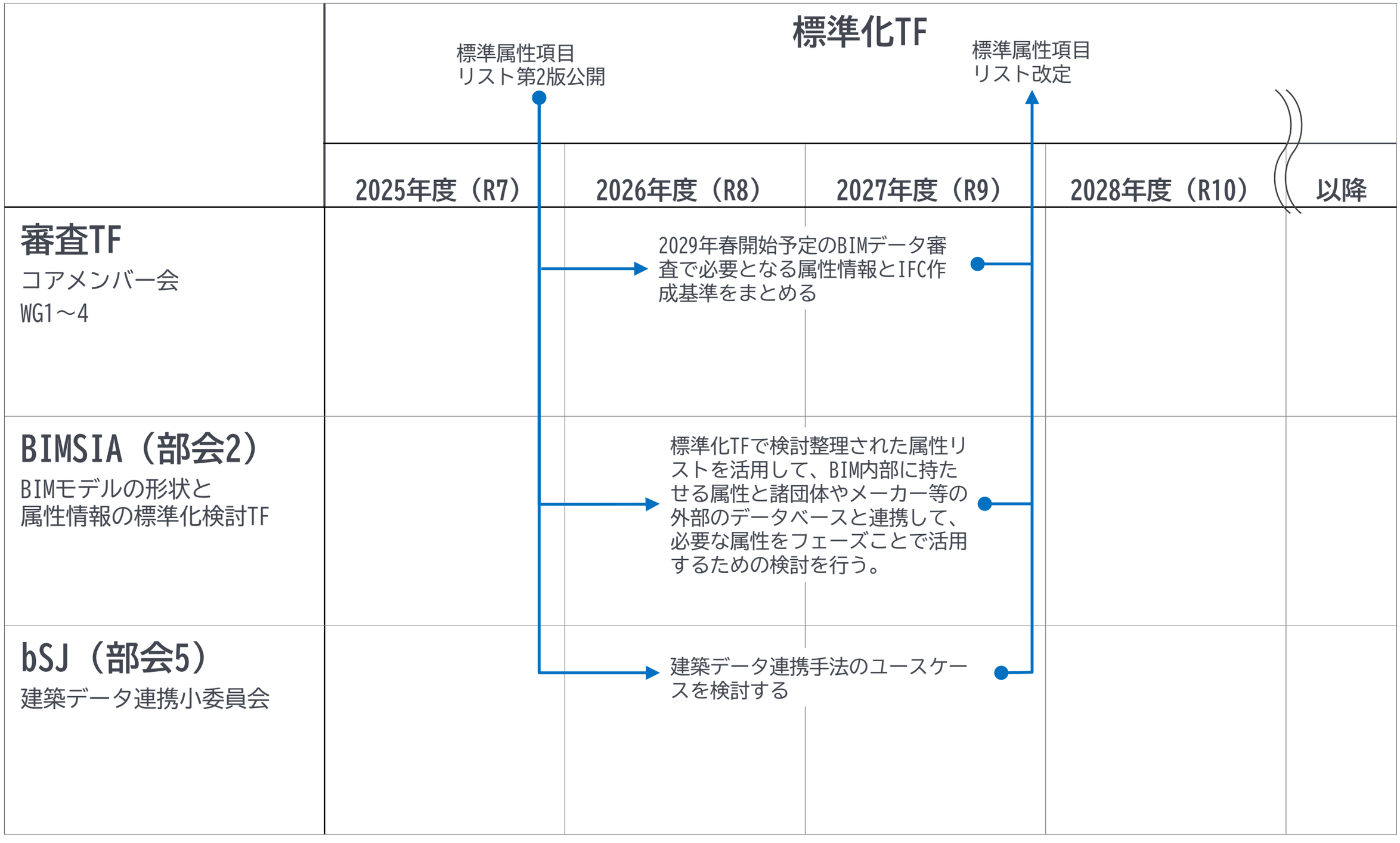
施工BIM＋DB

竣工建物＋ BIM＋DB

※ Ex. 内の数値はカテゴリ数イメージ

Ⅴ. 業界団体との連携｜関係団体との連携スコープの検討進捗

標準化TFの活動は各部会を統括することにある。これまでは標準化TF単独での活用が主だったが、各部会をまたいだ横串での活動へ移行していくために、今年度より関係団体との連携を進めていきます。



5 今後の取り組み

26年度マイルストン｜今後の予定

2026年度	4 5 6 Q1	7 8 9 Q2	10 11 12 Q3	1 2 3 Q4	最終アウトプット（案）
		中間報告▼		最終報告▼	
Ⅰ．属性情報の標準化		リストの改訂 今後の改訂に向けた検討 ・ユースケースに関する項目対応 ・精緻化 ・施工・製作の正式版反映方針 など	改訂作業 社会実装に向けた検討		・リストの改訂版 ・解説書の改訂版
Ⅱ．ソフト間での連携		ユースケースに対応したMET検討 METフォーマット検討 ・先期MET検討結果の統合を検討する ・昨年度のユースケースで検証を行う（荷重・諸元など）	METフォーマット案作成	受け渡し手法案の作成	・ユースケースにおけるMETフォーマット案 ・受け渡し手法案
Ⅲ．ユースケースの検討		積算ユースケース検証 複数フェーズ（S1/S2/S4）におけるBIM-積算検証 モデル検証 複数フェーズにおけるモデル作成 ・数量/単価算定をBIMor外部の仕分けを整理 ・検証範囲の検討とモデル確認		・モデルと属性項目リストの照合	・ユースケースに応じたモデルの要件案
Ⅳ．外部データとの連携		外部データ連携手法の検討 BIM外部データとしての標準仕様書デジタル化検証 先行事例分析	連携検証・課題整理	報告書作成	・連携手法の検討結果
Ⅴ．業界団体との連携		関係団体との連携・試行の準備 BIMSIAとの連携スコープの検討 審査TFとの連携スコープの検討 bsjとの連携スコープの検討	BIMSIAとの連携 審査TFとの連携 bsjとの連携		・検討結果報告書

以上

標準化タスクフォース